

農福連携の取組により自社栽培したお米を活用し、バウムクーヘンなどの米粉スイーツを製造・販売。地域外企業との連携や、障害者が活躍する店舗の設置など、地域共生と多様性のある雇用創出を実現。



基本情報

設立: R元年 / 農福連携取組開始: R元年
取得認証等: 認定農業者(R元年)、GGAP(R6)、6次産業化認定事業者(R4)
主な選定表彰: ノウフク・アワード2022フレッシュ及び2024準グランプリ(地域)、ディスカバー農山漁村の宝(第9回/全国)

概要

主力商品
(農作物) 水稻
(加工品) 米粉バウムクーヘン

特徴的な取組
スマート農業、特別栽培農産物、6次産業化



住所: 愛知県犬山市大字犬山字上り屋6番地11
TEL: 0568-54-4717
Mail: shop@cocotomo-farm.jp
URL: <https://www.cocotomo-farm.jp/>

きっかけ

R元年

「誰ひとり取り残さない居場所をつくりたい」という想いから始まり、農業と福祉を結び付け、地域の農地を活用しながら、障害者の働きがい創出と地域住民との共生ができる仕組みを模索。

人を耕す

● 複数業務(農業・加工・販売)を用意することで福祉事業者への請負報酬増を実現。また、複数業務の中から自身の特性に合った仕事を見つけられるため、一般就労への移行も実現。施設外就労からの正規社員登用も実施。
● 手話接客を行うサイニングストアでは、聴覚障害者が主体的に店舗運営を行い、責任者も輩出。

地域を耕す

● 農業・加工・販売の一貫体制により米の高付加価値化と安定収益を実現。
● れんげ農法による特別栽培米を生産。荒廃農地を活用し、稲作文化と地域景観を保全。
● カフェの経営、祭り(農業祭、ココトモフェスティバル)の開催・参加、見学会(ココトモファームツアー)や農業・収穫体験の開催、JA、行政、大学(日本福祉大学)、地元企業(中電ウイングファーム、名鉄グループなど)との異業種連携等で地域交流を拡大。

未来を耕す

● 農業・福祉・商業・工業を融合した「農福商工連携」を展開。
● 特例子会社中電ウイングと協働し、同社のいちごを使った「贅沢バウム ウイングいちご」を開発。農福連携を軸とした企業間連携という新しいモデルを展開。
● 聴覚障害者による「サイニングストア」など、多様性を体感できる革新的な店舗運営を実現。

成果

請負報酬の支払額	農作業に関わる障害者等の数	売上高	農地面積
0円(R2) →782万円(R6)	4人(R2) →89人(R6)	3,280万円(R2) →56,106万円(R6)	8.2ha(R2) →11.8ha(R6)
● 米粉スイーツや地域コラボ商品の開発により、農産物のブランド価値と市場競争力を強化。 ● 地元行政、大学、企業と連携し、多分野での協働を拡大。農業だけでなく観光・教育・福祉を巻き込む「地域共生型の農福モデル」を形成。 ● 「ココトモフェスティバル2025」では約3,000人を集客し、地域全体を巻き込むイベントを実現。障害者と地域住民が共に楽しみ、交流できる場を提供。			